

# 光葉ワーキングクラブメールマガジン

<2018年12月号>

141号 2018.12.03 配信

学園本部館と1号館の間のロータリーの木にクリスマスのイルミネーションが点灯しました。グランド横の銀杏の葉も黄金色に輝き始めています。

年末に向け、くれぐれもご自愛の上、おすこやかな新年をお迎えください。

## ■同窓会だより

○年末年始休暇 12月22日（土）～1月7日（月）

○秋桜祭 11月10日（土）・11日（日）

3号館の1階で「私の自分史」を展示しました。

### 秋桜祭の報告『一枚の自分史』展

11月10、11日の秋桜祭にワーキングクラブは『一枚の自分史』展示で参加いたしました。ワーキングメンバーの呼びかけで60名の同窓生がそれぞれの「一枚の自分史」を制作していただきました。参加の皆さま、制作時間が短い中、ご協力をいただきありがとうございます。

秋桜祭ではたくさんの方に展示をご覧いただきました。

「卒業後のそれぞれの生き方があって素晴らしい」「元気をもらえた」「次は私も作ってみたい」という感想をいただきました。  
(文責 磯辺・内藤)



## ■広げよう光の葉

坂口 明美

1984年 短期大学部食物学科卒

### 「感謝」

短大を卒業後、地元のホテルメーカーに勤め出産退職。その後、小学校に市の嘱託事務職員として勤め今年で17年目となります。現在は、市が学校へ配当する運営費の執行・管理や、来年度予算要求書を作成し、保護者から集める学校諸会費の管理等、様々な会計の担当をしています。学校なので口座引落しできなかった保護者には入金督促や、就学援助の申請を勧めることもあります。そのため、この仕事は、こちらの意図が通じたときは、やりがいを感じますが反故にされたときは落ち込みます。しかし、一晩寝ると『今度はこうしてみようか』と行動を起こします。

短大では、2年生になると就職活動・卒業研究に取り掛かりました。就職活動では、食品開発部門に就きたいという私の希望に、比護先生と、なぜか学部の杉田先生も相談にのって下さいました。比護先生は卒業後、出張のついでに大学に顔を出すと『あなたが希望していたA社が中途採用の募集を出しているのだけど』と気にかけて下さったこともあり、涙が出そうでした。『栄養士でやる気があるなら広尾病院にも紹介するわよ』と叱咤激励くださった橋本先生。畑違いの地元企業の内定を辞退しようかと迷う私に『寄らば大樹の陰だろ』と背中を押してくれた岡村先生。

また、私は昭和祭の研究編集の科代表の肩書をなぜかいただき、重荷に感じましたが附属からの友人が力を貸してくれ、助手の蕨迫先生、赤木先生も姉のように接して下さいました。両親以外の方がこんなに愛情をかけて独り立ちできるよう見守ってくれたことのありがたさを、齢を重ねる毎に実感しています。人の温かさが心に沁みた2年間であり、それが今の私が人を信じる源になっているのではないかと思うのです。

私も50代半ばとなり勤務先の若い先生方に、昔の自分と支えて下さった皆様を思い出しつつ、接する機会が増えました。『世の光となろう』は奥が深いとつくづく思います。

岡村先生、橋本先生、杉田先生も逝去されたと伺いました。ご指導いただいたあの時間は私にとって一生の宝物です。【End】